



細川 幸男 議員  
(無党派)

一括質問方式

# クレソンの販路開拓と 行政の役割について問う

**問**.....

遠野市の農業振興差別化の必要性について、市長の認識は分らないが、目まぐるしく変わる国の農政に対応すべく努力している事は理解する。市内の農家従事者は、市でも示しているように高齢者が大半で、約9割の農家が小規模経営である。高齢化が理由だけでは、むしろ、その人たちが主役にする農業を推進し、農家人

口を守る事は農村景観も守る事に繋がるものと考え。

2014年6月、アメリカ疾病予防管理センターの発表によると、地上最強の栄養野菜はクレソン。癌や咳等の予防効果や、女性の肌を美しく、体重をも軽くする。自家栽培が出来、年間を通して生産が可能な事や栽培経験は不要、年齢者や男女問わず、楽しく出来る農作業である。

課題は販売拡大だが、肉が主食の国々はクレソンが必需品とされ、農業国でも有る大國アメリカさえも周辺国から輸入している。遠野産クレソンをアメリカに輸出し、青年層からも期待される遠野農業に変えるチャンスと思う。遠野の農村景観の未来、クレソンの導入検討状況、販路の開拓について行政の役割を一括してお尋ねする。

**答**.....  
集落営農として2つの営農組合、クレソンの生産組合として1組合、個人として直接販売が数名、平成28年度から地域おこし協力隊が、個人で10アールの栽培に挑戦している。販路は東京都内、仙台市内レストランに販売している。議員が紹介した通り、栄養密度が非常に高いという研究結果が公表され、健康に良い野菜としてクレソンは見直されてきている。クレソン等の販路開拓と行政の役割とのことであるが、答弁で述べたとおり、クレソンの試験栽培を始めた平成22年度から、農業活性化アドバイザーが、首都圏や宮城県、そして県内のレストラン、市場との小ロットでの販売契約を取り付けてくれ、その販路は、現在も続いている状況である。農産物に限らず商品開発は、生産する前に、販路があることが大前提である。まず、一定の販路を

設けこれを足掛かりに市場を開拓する。また、市場の開拓に合わせ、生産基盤を確立する。この川下から川上の考え方が、私が言うまでもないが、経済活動の基本となる。



# 堆肥センターの在り方について

**問**.....

笛吹牧場の事故と遠野市の責任について伺う。

**答**.....

笛吹公共牧場に堆肥を散布した際に、大雨により、濁水が釜石市の青ノ木川に流出したものである。下流域の釜石市の方々は多大なご迷惑とご心配をおかけした。風評被害により釣り客が減少している地元漁協から補償

支援等を要望されており、対応については釜石市とも協議しながら慎重に進めていきたい。市営公共牧場における堆肥散布を許可した遠野市に当事者としての責任があると認識をしている。

**問**.....

堆肥センターの整備については。

**答**.....

畜産振興上、畜産農

家が耕種農家と連携するためには、堆肥センターの持つ意義は大きい。新たな堆肥センターの整備については、堆肥の市内の流通状況

需要と供給のバランス状況を見極めながら適正な規模を検証し、整備の方針を、スピードとタイミングを失しないように決定したい。



新しく整備が期待される堆肥センター

**問**.....  
遠野牛ブランドの確立について伺う。

**答**.....

平成25年から「いわて遠野牛」としての出荷が始まり、ブランド化の推進を図り3年目である。現在、年間1200頭を出荷している。今後もふるさと納税の返礼品など、知名度の向上を図るために取り組んでほしい。

野ブランドを育てる基本となる。失敗を恐れずに愚直に取り組んでまいりたい。可能性に挑戦していくこと、しっかりと取り組むことが大事。行政としてどれだけ農家を支援できるか、気概で取り組む。堆肥センターを足腰の強い農業振興の基幹と位置付ける。そして、タフビジョンを加速させたい。



荒川 栄悦 議員  
(市民クラブ)

一問一答方式

**問**.....

循環型農業、環境保全型農業における堆肥利用による農作物の遠野ブランド化について

**答**.....

耕畜連携における、安心安全の農産物こそ遠



いわて遠野牛のロゴマーク